授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	池永　正人		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テ ー マ：現地調査と研究成果の公表、博士論文の完成

到達目標：研究成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。そして、博士論文を完成させる。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域の自然現象や人文・社会現象に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	文献調査 地域調査	10% 15%
思考・判断	地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査結果の分析・整理	20%
技能・表現	調査の方法および調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身につけることができる。	研究成果の執筆 研究発表	20% 20%
知識・理解	地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の専門知識を修得できる。	文献・資料の収集および分析	15%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

２年次までに修得した学位論文執筆の技能、つまり文献調査および地域調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、研究発表などは、さらに高いレベルを要求する。

なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することはこれまでと同様であるが、全国規模の学会誌に２本目の研究論文が掲載されることを単位認定の条件とする。

授　業　の　概　要

２年次の研究成果を１年次と同様に学会発表し、学会誌に投稿する。また、後期が始まるまでに補足調査等を済ませ、研究課題に関するオリジナルな理論を構築した博士論文の執筆を終わらせる。後期は、研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期のうちに補足調査や考察を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げに時間を費やして博士論文を完成してほしい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	大畠　啓		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

この研究指導Ⅲでは、Ⅰにおける方法論的視座の確立や作業仮説の構築、Ⅱにおける具体的事例の抽出とデータの収集という基礎作業を受けて、実際に「博士論文の作成」に当る上での個別指導を眼目とする。すなわち、作業仮説と収集したデータ資料との整合性や学問的意義を具さに検討しつつ、論文全体の構成と表現手法を練り上げることによって、体系的で高度な学術論文として完成させるよう指導するものである。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	社会福祉思想に関する問題意識を明確にし、それを地域マネジメントの問題に応用して論じることができる。	・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントにおける論点を整理し、この分野に新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。	・博士論文執筆	20%
技能・表現	社会福祉の諸概念と視点を地域マネジメントに関する自らのテーマに応用し、論文を執筆することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関する主要な研究業績に当たって専門的な学術用語を正確に理解し、説明することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は博士論文の中間段階での執筆・提出 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%の配分で行う。博士論文の中間段階での執筆・提出は文字通り、指導教員の指導を十分に受けて学位請求論文を書き進め、その一部を提出するものであって、博士の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。その成果を研究科の中間発表会で報告しなければならず、これを果たさない場合には単位は与えられない（完成した学位請求論文を提出した後の公開試問会はこれとは別である）。

授業の概要

この授業は、博士論文の指導を内容とするものであり、ここでは特別研究指導Ⅰの「テーマ・サーヴェイ」、Ⅱの「リサーチ研究」をもとに学位請求論文として完成させることを目標に、内容の整合性や学問的意義をさらに高めるとともに、論文構成および表現手法を練り上げ、形式・体裁を整えていくための指導を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。

参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門的知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティ溢れるパースペクティヴ（ものの見方・捉え方）を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させていくことを要求する。中間発表会で発表報告することは義務であるが、公開試問会にも参加する必要がある。また全国的な学会における学術発表、および学会誌へのレフェリー付学術論文の投稿・掲載を目指す。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テ ー マ：現地調査と研究成果の公表、博士論文の完成

到達目標：研究成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。そして、博士論文を完成させる。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	博物館や地域文化資源に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	文献調査 地域調査	10% 15%
思考・判断	博物館の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査結果の分析・整理	20%
技能・表現	調査方法及び調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身に付けることができる。	研究成果の執筆 研究発表	20% 20%
知識・理解	博物館学の専門知識を修得できる。	文献・資料の収集および分析	15%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

２年次までに修得した学位論文執筆の技能、調査結果に関してより高いレベルを要求する。

なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することはこれまでと同様であるが、全国規模の学会誌等に２本目の研究論文が掲載されることを単位認定の条件とする。

授　業　の　概　要

２年次の研究成果を１年次と同様に学会発表し、学会誌に投稿する。また、後期が始まるまでに補足調査等を済ませ、研究課題に関するオリジナルな理論を構築した博士論文の執筆を終わらせる。後期は、研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期で補足調査や考察を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げをして博士論文を完成させることが望ましい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	木村　勝彦		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

この研究指導Ⅲでは、Ⅰにおける方法論的視座の確立や作業仮説の構築、Ⅱにおける具体的事例の抽出とデータの収集という基礎作業を受けて、実際に「博士論文の作成」に当る上での個別指導を眼目とする。すなわち、作業仮説と収集したデータ資料との整合性や学問的意義を具さに検討しつつ、論文全体の構成と表現手法を練り上げることによって、体系的で高度な学術論文として完成させることができるよう指導するものである。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	観光倫理思想に関する問題意識を明確にし、それを地域マネジメントの問題に応用して論じることができる。	・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントにおける論点を整理し、この分野に新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。	・博士論文執筆	20%
技能・表現	観光倫理の諸概念と視点を地域マネジメントに関する自らのテーマに応用し、論文を執筆することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関する主要な研究業績に当たって専門的な学術用語を正確に理解し、説明することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は博士論文の中間段階での執筆・提出 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%の配分で行う。博士論文の中間段階での執筆・提出は文字通り、指導教員の指導を十分に受けて学位請求論文を書き進め、その一部を提出するものであって、博士の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。年度末にはその成果を専攻内の中間発表会で報告しなければならず、これを果たさない場合には単位は与えられない（完成した学位請求論文を提出した後の公開試問会はこれとは別である）。

授業の概要

この授業は、博士論文の指導を内容とするものであり、ここでは特別研究指導Ⅰの「テーマ・サーヴェイ」、Ⅱの「リサーチ研究」をもとに学位請求論文として完成させることを目標に、内容の整合性や学問的意義をさらに高めるとともに、論文構成および表現手法を練り上げ、形式・体裁を整えていくための指導を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。

参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門的知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティ溢れるパースペクティヴ（ものの見方・捉え方）を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させていくことを要求する。年度末に専攻内の中間発表会で発表報告することは義務であるが、研究科での他の中間発表会や公開試問会にも積極的に参加する必要がある。また全国的な学会における学術発表、および学会誌へのレフェリー付学術論文の投稿・掲載を目指す。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	城前　奈美		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

特別研究指導（Ⅰ～Ⅲ）を通して、地域経済社会と観光現象との関係に関するもので、博士の学位に値する質の高い博士論文を作成する。特別研究指導Ⅲでは、博士論文の最終的な研究目的、研究手法および構成を定め、研究（必要に応じて追加調査）や執筆を続行する。そして、その成果を中間発表会で発表し、体系的で学術的・社会的意義のある博士論文を完成させる。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域経済社会と観光現象との関係に関心を持ち、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	授業態度・参加	20%
思考・判断	地域経済社会に与える観光現象の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査・研究の成果	30%
技能・表現	調査や研究の成果を、分析的に、かつ、論理的に執筆・発表できる。	研究成果の執筆 研究成果の発表	20% 20%
知識・理解	地域経済社会と観光現象との関係に関する知識を修得できる。	文献調査	10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は、授業態度・参加20%、調査研究の成果30%、研究成果の発表20%、研究成果の執筆20%、文献調査10%の配分で行う。授業態度・参加については、計画的に調査研究や執筆を進行したかを評価基準とする。調査・研究の成果については、調査結果や統計の分析や考察から、特性や問題点を的確に適正に見出しているか、さらに、その成果が博士論文に値する学術的・社会的意義を有するか、を評価基準とする。研究成果の発表や執筆については、博士論文の中間発表会において、分析的に、かつ、論理的に表現できているかを評価基準とする。文献調査については、追加的に必要な文献を理解したかを評価基準とする。

授業の概要

前期は、博士論文の研究（必要に応じて調査）と執筆に重点をおき、調査結果や分析結果を議論するとともに、執筆した原稿について、随時、添削していく。これら一連の作業成果を、博士論文の中間発表会で口頭発表する。

後期は、博士論文の執筆を終了し修正を施していく。研究目的から結論までの骨組みの論理性、独自性を確認する。

教科書・参考書

教科書：　特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。

参考書：　特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期のうちに補足調査や分析を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げをして博士論文を完成させることが望ましい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年/通年	必修・選択	必修

授業のねらい

観光が地域マネジメントにもたらす課題に、誰がどのように取り組むべきかの考察を完成させる。２年次までの研究成果を踏まえ、論文を完成させる。研究の結果明らかになったことについての考察を深め、論文全体としての論旨を明確にさせることに重点を置く。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	自分の選んだフィールドにおいて、地域マネジメントに関わるどのような課題が生じているかを把握し、論じることができる。	授業態度・参加 論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントに関わる課題にどう取り組むべきかを、論じることができる。	論文執筆	20%
技能・表現	論文を、読み手にとって分かりやすく執筆できる。	論文執筆 中間発表	10% 20%
知識・理解	先行研究に基づいて、研究テーマに関する学術用語を正確に使用することができる。	論文執筆 中間発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

博士論文執筆 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%とする。

授業の概要

（１）３年次では、博士論文を完成させる。適切な裏付けに基づいて明確な主張を示した、読み手に分かりやすい論文とする。
（２）第２回中間発表を行う。
（３）博士論文の提出、公開試問を受ける。
この科目の指導過程において、必要な研究倫理教育を行うものとする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。
参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

（１）論理的で明快な説明を心がけること（過度に能弁であることとは別である）。
（２）大学院の同僚や研究協力者に敬意と誠意をもって接し、教わろうとする姿勢。
（３）健康ならびに周囲との人間関係を良好に保つ。根気が続く源となる。
（４）研究の進めるうえで困ったことが生じたときは、すぐに指導教員に相談する。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	梅野　潤子		
展開方法	演習	単位数	4 単位	開講年次・時期	3 年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

研究指導Ⅲでは、研究指導Ⅰで構築した理論的枠組み及び、研究指導Ⅱで実施した調査研究の結果を踏まえ、博士論文を執筆・完成させるための個別指導を主眼とする。具体的には、調査研究において収集したデータを理論的枠組みに即して分析・考察を行い、それらの学術的意義を検討しつつ、博士論文の構成と表現手法に関する具体的な指導を行い、高度な学術論文として完成させるための指導を行う。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	問題意識を明確化し、社会福祉学及びソーシャルワークの先行研究・実践・政策における位置づけを論じることができる。	授業態度・参加 博士論文執筆	10% 20%
思考・判断	地域マネジメントに新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。	博士論文執筆	10%
技能・表現	文献レビューや理論研究の方法を身に付け、それらの研究成果を踏まえて口頭発表をし、論文を執筆することができる。	博士論文執筆 中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関する文献レビューを行い、理論的概念や学術用語を正確に理解し、説明することができる。	博士論文執筆 中間発表会での発表	20% 10%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は、博士論文の途中段階での執筆内容 60%、授業内での口頭発表 30%、授業態度・参加 10%の割合で行う。博士論文の執筆については、研究計画に即して着実に進行し、指導教員による研究指導を十分に受け、その内容を反映させた内容となっているかという点が評価の対象となる。研究成果を研究科の中間発表会で報告することが、単位認定の条件となる。

授　業　の　概　要

この授業では、博士論文の執筆指導のうち、研究の最終段階に位置する論文執筆のための指導を行う。具体的かつ実現可能な論文執筆計画を立て、研究指導Ⅰで構築した研究の理論的枠組み及び、研究指導Ⅱで取り組んだ調査研究によって収集したデータを用いて、学術的価値の高い博士論文を完成させるよう研究指導を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入すること。

参考書：岩田正美・小林良二・中谷陽明・稲葉昭英編（2006）『社会福祉研究法―現実世界に迫る 14 レッスン―』有斐閣．ダン・レメニイ著・小樽商科大学ビジネス創造センター翻訳（2002）『社会科学系大学院生のための研究の進め方―修士・博士論文を書くまえに―』同文舘出版．その他、授業中に適宜紹介する。

授業外における学修及び学生に期待すること

受講生に対しては、自身の研究テーマに関する先行研究及び実践・政策について幅広くレビューし、高度な専門的知識及び研究方法を修得するとともに、その分野における新たな知見をもたらすような独自性のある研究に取り組むことを期待する。また、地域の生活者や社会福祉実践現場の抱えるニーズや課題に迫ることができるよう、実践との接点を持ち、理論を実践に応用したり実践から理論を導き出したりするなど、意識的に理論と実践を関連づけながら研究を遂行することを求める。研究科における中間発表会での報告を義務とし、口頭試問会へも参加する必要がある。また、全国的な学会での研究発表及び査読付学術誌への論文掲載を目指して取り組んでほしい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	川上　直彦		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テ ー マ：先行研究の分析と考察から得た研究成果の公表、博士論文の完成

到達目標：研究成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。そして、博士論文を完成させる。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域の古代史と古代文化資源に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	文献調査	25%
思考・判断	地域の古代史と古代文化資源の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査結果の分析・整理	20%
技能・表現	調査の方法および調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身につけることができる。	研究成果の執筆 研究発表	20% 20%
知識・理解	地域の古代史と古代文化資源の専門知識を修得できる。	文献・資料の収集および分析	15%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

２年次までに修得した学位論文執筆の技能、つまり文献調査および先行研究からの重要な情報のノートテイクの方法、取得情報の分析、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、研究発表などは、さらに高いレベルを要求する。

なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することはこれまでと同様であるが、全国規模の学会誌に２本目の研究論文が掲載されることを単位認定の条件とする。

授　業　の　概　要

２年次の研究成果を１年次と同様に学会発表し、学会誌に投稿する。また、後期が始まるまでに補足調査等を済ませ、研究課題に関するオリジナルな理論を構築した博士論文の執筆を終わらせる。後期は、研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期のうちに補足調査や考察を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げに時間を費やして博士論文を完成してほしい。